

医師に聞く専門性の高い医療

手術で回復する認知症もあります

『正常圧水頭症』について

副院長・脳神経外科 富永 二郎 先生(月～木担当)のお話



「認知症は治らない」とあきらめていませんか？認知症の原因にはいくつかありますが、「正常圧水頭症」という脳の病気が原因の場合、手術で回復することがあります。「正常圧水頭症」は、脳から背中を通って腰まで流れている「髄液(ずいえき)」という水が、脳室(のうしつ)に過剰にたまり、周りの脳を圧迫する病気で

この病気になると次の症状が出ます。
①認知症/物忘れ。集中力・意欲・自発性の低下。無表情で一日中ぼーっとしている。呼びかけても反応が鈍い。趣味を楽しまなくなる。
②歩行障害/小股でよちよち歩く。足を開き気味に歩く。足をひきずる。第一歩が出ない。突進歩行(うまく止まれない)。不安定で階段が使えない。転倒。
③尿失禁/頻尿。尿意切迫。失禁。アルツハイマー病のような徘徊や、パーキンソン病のような手の震えはありません。

「正常圧水頭症」かどうかを調べる検査は、まずCTとMRIで脳室拡大の有無を見ます(外来で可能です)。症状と画像所見で正常圧水頭症が疑わしい場合は、「タツプテスト」という検査をします。腰椎に細い針を刺して、髄液を30ミリリットルほど抜き、症状が改善するか様子を見ます(場合によっては入院が必要です)。もしも症状が1〜2日程度で軽くなるなら、手術することを考えます。診断が確定すると

「シャント術」という手術を行います。これは、脳室に過剰にたまった髄液を、体内に入れたチューブを通して腹腔(ふくくう)などに流し込む手術です。流した髄液はお腹で吸収されて体内の循環に戻り、術後は1週間程度で退院できます。

シャント術による症状の改善率は「認知症70%」「歩行障害90%」「尿失禁70%」と言われています。すぐに効果の出る方もいれば、流す髄液の量により、数週間から数ヶ月かけて改善することもあります。

「正常圧水頭症」は、発見が遅れて症状が進行すると、治療効果が少なくなります。①②③の症状に心当たりのある方は、早めに専門医に相談されることをお勧めします。

次回は「顔面の痛みや『びくびく』は脳の病気？」を予定しております。

*富永二郎/1991年東海大学医学部卒。医学博士。日本脳神経外科専門医。日本脳神経学会専門医。

正常圧水頭症の治療

「シャント術」…患者さんの状態に応じて、いずれかを選択します。

腰椎 — 腹腔シャント術

腰の骨の中にチューブを入れて、髄液をお腹の中へ流す。

脳室 — 腹腔シャント術

頭が骨に小さな穴を開けて、脳室→首→お腹までチューブを通し、過剰にたまった髄液をお腹の中へ流す。

取材協力

医療法人 財団報徳会
西湘病院

院長 原 俊介
小田原市扇町1-16-35
0465-35-5773
<http://www.seishou.or.jp>

<急募> 薬剤師/常勤・パート